

事例7 早稲田エコステーション（東京都新宿区）

～環境・リサイクルを切り口に空き店舗を活用した商店街活性化・まちづくり～

所在地 東京都新宿区（人口 約 262,000 人）

商店街名・タイプ 早稲田大学周辺連合商店会（7 商店会、近隣型 480 店）

活用コンセプト 環境・リサイクル

1. 事業の経緯

早稲田商店街の「エコステーション」は、商店街の夏枯れ対策として平成 8 年の夏の「エコサマーフェスティバル」から始まった。早稲田商店街の商圈人口は約 5 万であるがそのうち 3 万人を占める早稲田大学の学生が夏休みになると居なくなるため商店街は閑散としてしまう。そこで、この夏枯れ対策として集客イベントを企画し最終的に環境・リサイクルをテーマとしたイベント「エコサマーフェスティバル」を開催したところ、社会的に注目を浴び成功した。その後、「ごみゼロ平常時実験（PR しなくてもリサイクル活動ができることの証明）」などを経て、平成 10 年 9 月に商店街の空き店舗（約 5 坪。元は洋品店の倉庫）を借りて空き缶回収機とペットボトル回収機を常設した「エコステーション 1 号館」を開設した。現在、「エコステーション」は工事中の 2 号館を含めると早稲田大学周辺連合商店会（7 商店会）の中に 3 ヶ所あり、早稲田のリサイクル事業の拠点となっている。

2. 事業の概要

本事業では、「エコステーション」に空き缶、ペットボトル回収機（3 号館は生ごみと発砲スチロール処理機）を設置し、その回収機に空き缶等を入れると回収機のモニター画面にラッキーチケット（商店街の参加店で使える商品券、値引き券）の当落が表示され、当たるとラッキーチケットが発行される仕組みで、空き缶等の回収（リサイクル事業）と商店街、参加店への集客を促進している。ラッキーチケットの当選率は自由設定でき早稲田商店街では 7 回に 1 回程度となっている。ラッキーチケット当選者の来店率 60～90% である。

「エコステーション」の開業時間は午前 10 時から午後 6 時までで、常駐職員は置かない。毎日 1～2 回程度巡回し回収機に溜まった空き缶などを取り出し、3 日に 1 回専門業者に引き渡す。回収数は 1 号館を例にすると、空き缶は月に 1 万 2 千～4 千個程度、ペットボトルは 4 千個程度である。

また、1号館に続き平成11年3月には2号館（現在工事中）が、平成12年8月には3号館（約5坪。元は惣菜店）が整備された。いずれも空き店舗を活用し整備されている。なお、エコステーション3号館には、空き缶、ペットボトル回収機にかえて、生ごみ処理機と発砲スチロール処理機が設置されているのほか、早稲田商店街初のバリアフリー対応トイレのや学生の溜まり場になるようパソコンが3台設置されている。

「エコステーション」整備については、空き缶回収機135万円、ペットボトル回収機160万円などのほか、機器メンテナンス、ラッキーチケット情報入力費、空き缶等の回収リサイクル費用、家賃、水道光熱費等の運営費が必要となる。早稲田商店街では補助金等は受けず商店街が設置、運営している。

<概要>

所在地 : 東京都新宿区西早稲田

施設規模 : 1号館（17㎡）、2号館（工事中） 3号館（15㎡）

事業開始 : 1号館（H10.9） 2号館（H11.3） 3号館（H12.8）

所有関係 : 賃借

運営主体 : 早稲田商店会

事業費 : 商店街負担 下記は1号館の場合

整備費 空き缶回収機135万円、ペットボトル回収機160万円等

運営費 月20万円程度（機器メンテナンス、ラッキーチケット情報入力費、空き缶等の回収リサイクル費用、家賃、水道光熱費など。）

従事職員 : 常駐者はなし。1日に1～2回巡回

月回収数 : 空き缶1万2千～4千個程度、ペットボトル4千個程度（1号館）

開業時間 : 10:00～18:00

3. 事業の効果

「エコステーション」設置の効果は、ただ単に商店街、参加店の集客力が向上するというだけでなく、環境、リサイクルを切り口に、地域と商店街とのつながりが強化され、地域住民が商店街に戻ることであると思われる。

環境問題への関心が高まる今日、空き缶等の回収リサイクルを商店街活動に取り入れた「エコステーション」は空き店舗対策としても有効であるとともに、地域における商店街の位置付けを考える上で参考となるものと思われる。

早稲田商店街（大隈通り商店街）



早稲田商店街（早稲田駅前商店会）



エコステーション1号館



1号館の空き缶、ペットボトル回収機



エコステーション3号館



3号館の生ごみ処理機発砲スチロール処理機

